

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

東橋いちい認定こども園

令和元年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 身近な保育教諭や友達との触れ合いを喜び、安心して過ごす
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながらいろいろな遊びをする中で、自分の思いを表現する楽しさを感じる
- 2歳児 いろいろな遊びや身の回りのことに関心をもって自らかわり、保育教諭や友達と興味を広げ楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びに興味をもち、自分の気持ちを表現しながら友達と関わることを楽しむ
- 4歳児 様々な遊びや活動に興味をもち自ら進んで参加したり自分の気持ちを伝えたりしながら、クラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、自分なりに考えながら目標や見通しをもって行動することや、いろいろな友達と気持ちや考えを伝え合い協力しながら遊びを進めることを楽しむ

自己評価	評 価 内 容
「A」	<ul style="list-style-type: none">・年度末の子どもの姿と照らし合わせて考えると、どの年齢も適したねらいを立てることができ、各年齢ごとの子どもの成長が感じられた。・次年度もねらいと実態がかけ離れたものにならないよう、先を見据えたねらいを立て、年度途中の振り返りも大切にしながら進めたい。

(A：成果が上かった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
<p>幼児理解を深め、乳児と幼児の積極的な交流</p> <p>【自己評価】 「B」</p>	<p><u>☆身近な園生活の中で、交流の機会をもつ。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 「わくわくタイム」の実施。毎週水曜日、全園児一緒に体操などを行う。 * 2学期から基本的なペアの学年を決め、定期的に交流をする。学年部会で、翌月の交流について検討し実行する。 (0, 1歳児と5歳児・2歳児と4歳児・3歳児は適宜) * 上記の取組を今後の指導計画に追加できるよう、取組み内容やその際の配慮点などを具体的に残す。 <p><u>☆園内研究を通して乳幼児理解を深める。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 今年度の「園内研究」では、乳児クラスと幼児クラスの担当者が一緒に、年間を通して園内外の遊びの環境について考える取組を行う。 * 同じ遊びの環境でも、年齢と成長段階による遊び方や準備物などの違いを理解し合い、その上で園として必要なものを探ることを通して学びを深めたい。 <p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な園生活の中で交流の機会をもつことは、「わくわくタイム」の実施を通して自然に行えるようになったと感じている。曜日を決めたことで定期的に行なうことができ、子どもたちの園生活に馴染み楽しみな時間になっていることや、保育教諭間で担当を決めながらスムーズに実施することができた。学年ごとの活動時間の交流については、時期やねらいを考慮しながら取組を進めることができた。次年度は、より具体的な活動内容を時期とねらいに合わせて年度当初に計画することができると、より定期的な活動となると考える。 ・ 園内研究を通して、成長段階による環境の準備のしかたの違いやそれによる援助の違いについてを一緒に考え意見交換することにより、各保育教諭がより深く考えることができ学びにつながった。次年度の交流計画に活かすことで学びを継続させたい。
<p>保育環境の「整備」や「環境の構成」についての創意工夫</p>	<p><u>☆園内研究を通して園内外に必要な遊びの環境について考える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 園内外に3つの「ゾーン」を掲げ、それぞれのゾーンでの様々な遊びやそれらの遊びを楽しむために、必要な環境の構成の仕方や様々な準備について、年間を通して検討・実施をする。 * 上記のゾーンごとに、保育教諭がグループとなり、年間を通しじっくりと取組を進める。 * この取組を通して、環境の整備や環境の構成について見直したり、新たな発想も取り入れていきたい。 <p><u>☆絵本に、より親しめる環境作り。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> * 0, 1歳児の月刊絵本の取組みを通し、必要な環境について改めて考える。 * 2～5歳児の月刊絵本の活用方法や必要な環境について、実践を通して考える。 * 全クラスの絵本の貸出し方法の見直し。 * 絵本の部屋の環境整備の継続。 * 保護者向け図書の整備・充実を図る。

<p>【自己評価】 「A」</p>	<p><u>☆安心・安全な保育環境の整備</u> *園内外の保育環境における安全面の再確認と整備。 *「ヒヤリハット」「事故記録簿」の内容把握を迅速に行う。 *「お散歩マップ」の確認・見直し・追加などを繰り返す、その都度職員に周知する。 *プール遊びにおける衛生面の見直し。 *川遊びの安全性を高めるために、ライフジャケットの着用。</p> <p>【評価内容】 ・保育環境について、様々な観点からそれぞれの保育教諭が自主的に考え行動することができたことが大きな成果と感じた。 ・自らが考えたことを保育環境に反映させる経験が、より次の計画に活かせる成果が感じられた。 ・特に安全・安心に対する意識の向上が見られたこと、それを実行できたことは次年度につながるものと考えている。 ・今年度の様々な取組を次年度以降も継続させることが、各保育教諭の意識の根付きになると考えている。</p>
<p>保護者理解と連携の強化</p> <p>【自己評価】 「A」</p>	<p><u>☆保護者理解について</u> *保護者との関わりや対話をできるだけ多く設け、保護者の思いを理解すること、また、園の思いもお伝えし、理解が深まるよう努める。(電話・送迎時の会話などを通して) *保護者アンケートを実施し、保護者が園をどう捉えているかを知り、それに基づき、改善したり園の思いお伝えしたりなど、適切に対応したい。</p> <p><u>☆保護者との連携について</u> *園の保育を、日頃から積極的に見ていただけるような呼びかけを継続的に行う。 *「コドモン」の導入により、保護者側の利便性を高めると共に園の保育の理解にも繋げる。 *お便り等の配付物の改革。(より読みやすく伝わりやすく) *HPブログの定期的な更新。</p> <p>【評価内容】 ・保護者アンケートの結果は、保育教諭それぞれの意識向上と実際の行動につなげることができ、様々な観点からの意見を聴くことは、効果につながると感じた。 ・今年度の結果から、新たに保護者が何を求めているかを理解することができたため、次年度の計画に活かしたい。 ・今年度から導入した「コドモン」は、一年をかけて徐々に使用しやすくなってきた実感が保護者からも職員からも上がっていたことや、今までの配布物の見直しにもつながったことから、導入の効果を感じている。次年度からも、より活用できるよう研究し、保護者の利便性を高め、職員の業務効率化も実現したい。</p>
<p>保育教諭の主体性の向上</p>	<p><u>☆自己目標（個人）の設定をより具体的に行う。</u> *自己目標の設定を年度当初に行い、それに基づいた園長との面談を年に3回(4月・8月・2月)実施し、自身の振り返りと目標設定の見直しや修正をしながら、自己目標の実現に向けて自主的に取り組めるようにする。</p>

	<p>*年度末にその目標に沿った振り返りをし、自身で設定した目標に対しての自主的な評価を出し、次年度への意欲へ繋げられるようにする。</p> <p>☆自己評価（園の保育等に関して）項目の精選を行う。</p> <p>*前年度までの自己評価は、項目が多く評価自体が負担になってしまうようなものだったため、今年度から項目の見直しを行い、より自園の保育に近いものとなるようにする。</p> <p>*実施時期を8月とし、前期を振り返り後期に繋げられるようなものとする。</p> <p>☆園内研究を通した自主的な姿勢を大切にす。</p> <p>*今年度の園内研究は、より自身の考えや発想、子どもの成長に対する願い等をより明確に意識しながらの取組が必要になってくる。</p> <p>*そのため、様々な意見や考えが出されることになると思われるので、受けとめ合いながら互いを認め、次へ繋げられるような雰囲気や体制を作る。</p>
<p>【自己評価】 「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価の項目を変えたことで、より具体的な自分自身としての振り返りがしやすかったのではないかと感じる。また、項目を少なく具体的に絞ったことにより、振り返りやすく次年度への課題も見えやすくなったことは良かった点と言える。しかし、年度途中での振り返りについては、適切な実施時期と方法を見極めていくことが必要と考えている。次年度も検討しながら効果につながるようにしたい。 保育教諭の自主的な姿勢については、立場によって違いが見られるため、全職員が自らのこととして捉えられるような取組を続けたいと考えている。

4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 保育環境整備や環境構成の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 当園が最も大切にしている、子どもの主体性を育む「遊び」を存分にできる環境について、今年度からの継続として何が必要かを「園内」「園外」共に、引き続き考えていきたい。 保護者アンケートや職員の自己評価からも、環境の見直しや改善の必要性が感じられた。継続して取り組みたい。
② 異年齢交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> 近年の継続した取組により、取組方がより具体的になってきたため、定期的な実施やそれによる活動の充実を図りたい。 充実することによる意義（互いを思いやる気持ちや、年長者への憧れの想い、年少者を慈しむ想いを自然にもてるようにしたい。それが、子どもたちの心の成長に繋がるように）を明確にして取組を進めたい。
③ 保護者理解と連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と共に良い園創りをしていくことが子どものため、園のためになることの大切さを改めて認識し取り組みたい。 園からの発信を、より伝わりやすくなるための改善に取り組みたい。
④ 保育教諭の主体性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 保育を行う上での大切な環境の一つとなる保育教諭それぞれが、いきいきと主体的に勤務できるよう努めたい。

